

## 国益のために戦略的グローバルヘルス部門の確立を

2013年10月8日

東京大学医学系研究科 国際保健政策学

教授 渋谷 健司

### 1. グローバルヘルスの興隆

- 1) 2005年頃より米国や英国を中心にグローバルヘルスが興隆。大学やシンクタンクにグローバルヘルス部門の設立。
- 2) NIH、ゲイツ財団、MRC、ウエルカム・トラストなどのグローバルヘルスへの参入。
- 3) 米国ワシントン大学医学部・病院（シアトル）の例（スライド①）：年間予算3800億円の産学共同体、グローバルヘルスは2番目に大きい教室。
- 4) 発見（Discovery and Translational）に加えて、製品開発（Development）や制度を含めた製品供給（Delivery）に関する研究の推進。

### 2. グローバルヘルスは医療の将来

- 1) 医療の将来：情報産業化、生活総合産業化、グローバル化。
- 2) 国家戦略及び外交安全保障戦略としての保健医療（ブレア政権、オバマ政権など）：テロや感染症などの安全保障対策、社会経済開発・将来の市場の開拓、リバースイノベーションの活用、国際貢献・民間外交手段。最近は中国もグローバルヘルスを優先分野として認識。
- 3) 国内外の医療戦略の一体化：国内R&Dのみならず、ビジネスやODAでも医療が優先事項に（OECD諸国における保健医療のODAに占める割合の平均は15%、日本は2%）。医療のグローバル化と国内医療改革は表裏一体（規制緩和、NIHやCDC機能など）。
- 4) 国際共同研究の推進や小規模でもインパクトのある研究支援の仕組み。ビジョンとアイデアを持つ者やルールを作る者にリソースがつくシステム。
- 5) 結果として、米国・英国内の研究レベルの向上と成果の増加、治験フィールドの確保、次世代のリーダーの育成、国家としての信頼やバリューの向上、国内医療に導入されるリバースイノベーション→納税者への還元。

### 3. グローバルヘルスの潮流：3つのP

- 1) Partnership（国際的官民連携）
  - 研究資金の多様化（公的資金、企業、財団、VC、エンジェルなど）。限られた公的資金→民間（企業、寄付）と国外（公的資金、企業、財団）から呼び込む。
  - 公的研究資金の役割の明確化：経済的合理性を外れるもの・リスク判断不可能なもの、多数に便益があり1機関や1社では投資のインセンティブの無いもの（公共財）、原発事故や感染症な

ど多くの国に影響を与えるもの（外部性）、人材育成など。経済的合理性からリスクに投資できる案件ならば民間に任せる方がベター。

- 国際的連携・官民連携の例：1) NIH、ゲイツ財団、各国政府、製薬企業による新薬開発パートナーシップ（PDP）から16の新薬の製品化、2) EUと欧州製薬団体連合による革新的医療イニシアチブ（IMI）による13億ユーロの官民連携基金、3) NIH、ゲイツ財団、米軍、製薬企業によるエイズウイルスワクチン開発とアフリカやタイでの治験、4) NIHとUSAIDのアフリカ諸国での電子カルテ導入による治験基盤整備など。

## 2) Prioritization（戦略的研究分野）

- エビデンスに基づくべき。国内外の専門家の活用。
- 例：Global Burden of Disease 2010（2010年度の世界の疾病負担研究）（スライド②）。単一疾患ではなく、多数の疾病や危険因子の包括的な分析。世界7大学（含東大）を中心に、50ヶ国302機関から500名近くの研究者が参加した共同研究。米国、英国、中国、ゲイツ財団などが将来戦略の主要データとして政策や研究重点分野の決定に活用。

## 3) Performance（成果の検証）

- Peer-reviewによる質の担保と改善。肩書き、年齢などに関わらず正当な評価。
- R&Dには常に失敗のリスクがつきまとう→それを社会的に受容してもらうための啓発の必要性。しかし、成功>良い失敗>悪い失敗>>>何もリスクをとらない、という評価を。

## 4. 4つ目のPは、Personnel（ヒト）

- 1) オリンピック招致成功の教訓：個人レベルでの信頼と実績による世界のベスト&ブライテスとのネットワークとその取り込み。
- 2) 目利きの必要性：医療の将来像、世界で何が起きているのかへの理解。
- 3) 第3世代の医療人材の必要性（スライド③）。
- 4) 外交安全保障、金融、法律などの専門家の参画。

## 5. 結論

- 1) NIHに戦略的グローバルヘルス部門を確立（予算の15%を国際共同研究に）。
- 2) 国内外の医療戦略の一貫性の確保：研究戦略+規制緩和+外交安全保障の連携。
- 3) 最後はヒト：分野別専門家、課題解決型専門家に加えて、システム思考・グローバル思考のできる人材の育成と活用。